

●イラスト・エッセイ●

ビートルズのころ

私は奇痴だった

中学のころ学校では禁じられていたバーマをかけていた友人が

「フリーズ・ミスター・ポストマン」の

EPを貸してくれた

覚えようと思ったが和音の上に和音が

フリーズの上にフリーズが

もようのように重なるそれを聞いて

胸がしめつけられるのがせいぜいだった

クラシックを愛する父は

おまえが大人になったら

若いころはくだらないグループに夢中だった

と思うだろうと言った

ビートルズは日本にやってきてテレビニュースで流したが

遠いくにて行われている革命のように

家ではだれも

気にとめる人はいなかった



高校のころ
当時はめずらしい
エレキ・ギターをもっているグループと
知りあった
アマチュアのサークルで
彼らはビートルズを歌っていた
「このバックに高く流れるバイオリンが
ホラ、いいんだよな」
などと語るのて
なんと耳のいい人たちなのだろうと驚いた
友人と一緒に
「ピア・セア・アンド・エブリホエア」の中で
かすかなカステネットが鳴る音を数えた
卒業後は 別れていったが
教えてもらったビートルズは残った
いい子供でも いい生徒でも
なかった私が
学校にも家庭にも
無言で反発し
友人と読書とマンガとビートルズに
はけぐちを求めているところ



私がアビー・ロードのLPの

マックスウエル・シルバー・ハンマーを覚えたころ

ビートルズは解散してしまった

ビートルズは永遠に続くものと信じていた
もの知らずの私は

ただボカンとするばかり

何かのまちがいだ

そのうちまた一緒になると思い続けた

そしてその後も多くのグループが

結成されたり

解散したりするのを見ていて

むしろ

あれだけの個性の集団が

よくもあんなに長く

ひとつのグループを形成していたものだ

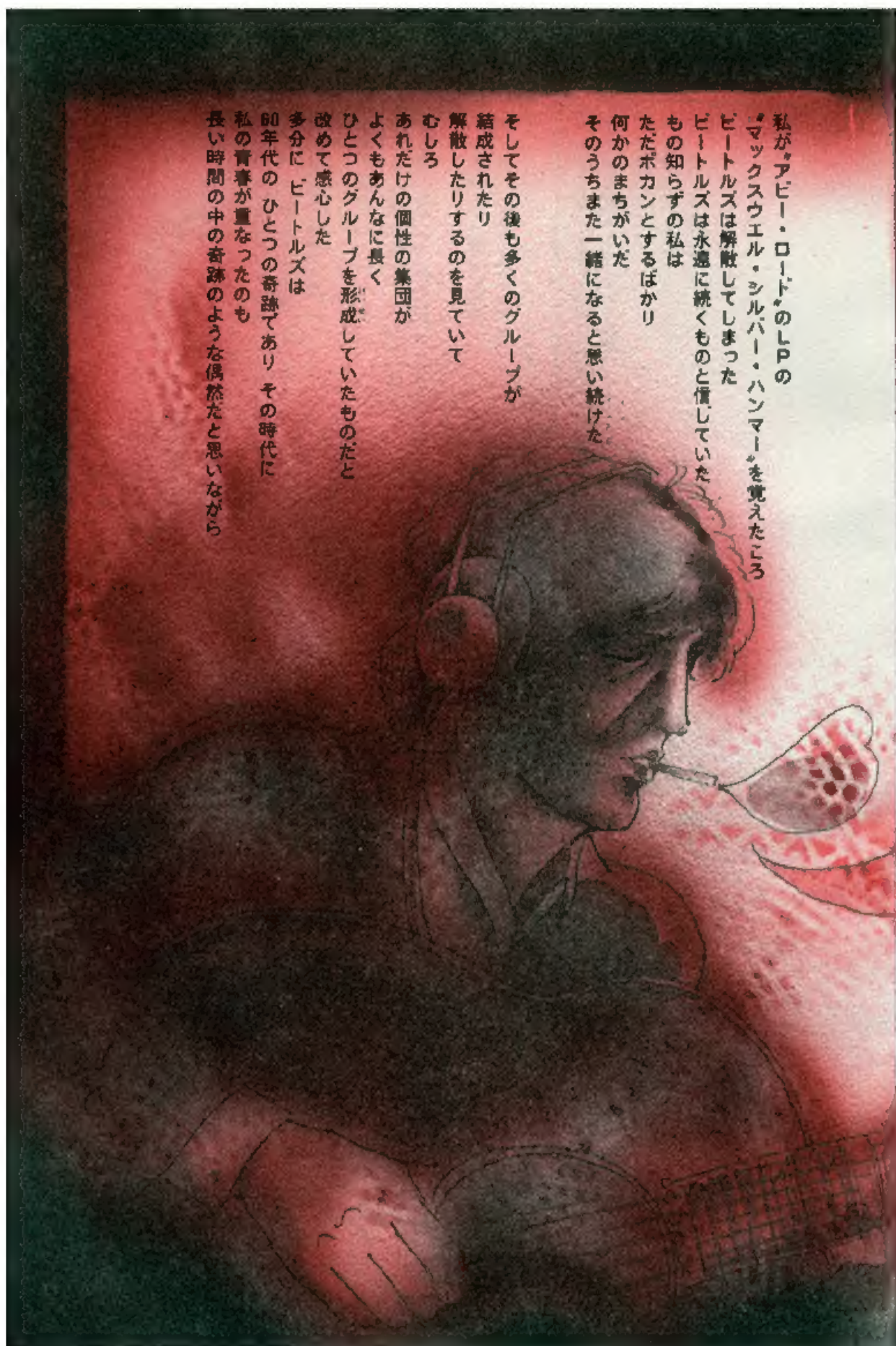
改めて感心した

多分にビートルズは

60年代のひとつの奇跡でありその時代に

私の青春が重なったのも

長い時間の中の奇跡のような偶然だと思いながら



1980年の12月8日に
 ニューヨークでジョン・レノンが撃ち殺されたという
 ニュースが伝わってきて
 デマじゃないのと言ってるうちに
 どのテレビもラジオも同じことを言いだした
 街ではいたるところでビートルズが流れ
 音楽はせつなかった

拓郎の歌う

ビートルズが教えてくれたを思い出して
 そうだ 私もいっぱい教わったわと思った

夢中で読んだ彼らの伝記

親にないしよで見にいった

ア・ハード・デイズ・ナイト、ヘルプ、

ブレイヤーの音をひくくして真夜中

身をかめくりかえし、リボルバーを聞き続けた

確かな音楽のてこたえに酔い

こんな私だって

今にきつと なんとかなると

信じていたあのころ

